

学校だより  
第9号  
令和8年1月7日  
こだまする笑顔

# こだま

学校教育目標  
人間性豊かな判断力と  
実践力を持つ生徒  
吉川市立中央中学校



HP <http://O2.yoshikawa-ed.net/chuo/> TEL 982-0241 さわやか相談室 TEL 983-2668

## 1月の生活目標

○新しい目標を持ち具体的な計画に基づいて努力しよう ○自分の仕事に責任をもってやりとげよう

生徒数(R8.1.6現在)

1年生:152 2年生:154 3年生:179 計485人

## 『Footprints in the Sand (神様の足跡)』

校長 相沢 一弘

新年を迎えました。今年も変わらぬ御支援・御協力をどうぞよろしくお願いいたします。  
さて、何事も新年で初めてのことは「初〇〇」と名が付きますが、「初夢」を見た方はどれくらいいるのでしょうか。今回は、ある夢のお話を紹介します。

夜の静寂の中、一人の人が夢を見ました。

夢の中で、その人は神様とともに、長く続く砂浜を歩いていました。  
空には、その人の人生のすべての場面が、まるで映画のように映し出されています。  
幼い日の笑顔、初めての挑戦、失敗と涙、そして誰かの温もり——  
そのすべてを見上げながら、二人はゆっくりと歩いていきます。  
足元には、二組の足跡が並んでいました。  
一つは自分のもの、もう一つは神様のもの。

「私は決して一人ではなかったのだ」と、その人は心の中で安堵あんどします。

けれど、ある場面に差しかけたとき、ふと気づきます。  
それは、人生で最も苦しく、孤独で、涙にくれた時期。  
そのときだけ、足跡が一組しかなかったのです。

胸が締めつけられるような思いで、その人は神様に問いかけます。  
「神様、なぜあのかとき、私を一人にしたのですか？  
あんなにもつらかったのに、あなたはどこにいたのですか？」

神様は、静かに、しかし力強く答えました。  
「私の愛する子よ。私は、あなたを決して見捨ててはいない。

あのかとき、私は——動けないあなたを背負って歩いていたのだよ。」

その瞬間、波の音が優しく響き、夜空に映る人生の映像が、柔らかな光に包まれました。  
その人の目から、静かに涙がこぼれ落ちます。  
それは悲しみの涙ではなく、深い感謝と気づきの涙でした。

この話は、『Footprints in the Sand』という詩からつくられています。この詩は、世界中で多くの人の心を打ち、支えとなってきました。学校生活にもまさにこの詩のような瞬間があるのではないでしょうか。

子どもたちは日々、学び、悩み、挑戦しながら成長しています。時にはうまくいかず、涙を流すこともあるでしょう。そんなとき、大人は「見守る」ことの大切さを思い出します。声をかけ、手を差し伸べることもあれば、あえて一歩引いて見守ることもあります。でも、どんなときも、子どもたちのそばには、必ず誰かがいて、支えているのです。子どもたち自身は、後になって初めて気づくかもしれません。「あのかとき、先生がそっと背中を押してくれていた」「おうちの人が、何も言わずに見守ってくれていた」その気づきがやがて感謝や自信となり、次の一歩を踏み出す力になります。

この一年も、さまざまな出来事があることでしょう。嬉しいことも、悩ましいことも、予想外のことも。でも、どんなときも「誰かがそばにいる」「見えない支えがある」ことを信じて、生徒たちとともに、しっかりと歩いていきたいと思えます。

